

動脈収縮期圧、肺動脈～右室収縮期圧較差はともに上昇傾向を示した。右室拡張末期圧 (RVEDP) は 4 例で上昇、肺動脈楔入圧 (PA wedge) は 4 例中 2 例で上昇した。右室駆出率 (RVEF) は 6 例中 2 例で低下、左室駆出率 (LVEF) は全例上昇した。Ex で RVEDP の上昇した例で RVEF の低下が見られた。これらの例で Tm での心拍数の増加が早期に起り、Ex の所見との関連性を示した。また、Ex で PA wedge の上昇した例でも Tm

で軽度の運動機能低下が見られた。以上より、一見よく修復されているように見える症例の中にも運動機能低下を示すものがあり、それは右室、左室それぞれの機能低下の反映として観察された。但し Ex: 臥位 bicycle ergometer 15~50 watt. Tm: Sheffield. アンギオ: 安静時、負荷直後 2 回。手術時年令 $16/12 \sim 6$ yr (m 4.0). 術後 1~11 yr (m 5.8 yr), 検査時年令 6~15 yr (m 10 yr).

男 4 女 3

先天性心疾患の心理学的特徴に関する研究

東京女子医大循環器小児科	高 尾 篤 良
"	安 藤 正 彦
東京女子医大看護短期大学、心理学科	長 谷 川 浩
文教大人間科学科、心理学科	岡 堂 哲 雄
"	中 村 俊 子
"	三 本 美 智 子
学習院大大学院人文科学研究科、心理学科	岡 堂 純 子

前年度に引き続き、東京女子医大心研小児科に入院もしくは通院中の先天性心臓疾患児に対し、知能・性格・親子関係についての調査を実施した。

1. 知能検査によるアプローチ

1981年4月以来1982年11月までに170名の検査を実施した。原則として6歳未満には、「TK 式田研・田中ビネー知能検査」(86名)、6歳以上には「WISC-R」(84名)を使用した。なお「WISC-R」は、知識・単語・数唱・絵画完成・絵画配列・積木模様の6種目に限定した。

平均 IQ は、田中ビネー 107.5、WISC-R 93.0 であり、田中ビネーの方が多少高目であった。WISC-R を使用した6歳以上を12歳を境にして2群にわけて比較すると(つまり、小学生群と中高生群)、小学生群が97.3、中高生群が84.3であった。先天性心疾患児の場合、年長児になるにつれて知能面の問題が生じやすいものと思われ、これには不完全就学などの知的訓練の不足が影響するようと思われる。田中ビネー使用の幼児群は、割合に知能は良いが、5歳児をとりあげると、歴年令相当問題

と最高通過問題との距りが大きく、平均19ヶ月であった。知能構造に、幼い面と大人びた面とが含まれ、不均衡のように思われる手術前後の IQ 比較を24名について検討中であるが、全般的には若干上昇しており、疾患の軽度の児にその傾向が見られる。

2. ロールシャッハ検査によるアプローチ

上記期間に実施したデータをさらに細かく分析した。病児は健常児よりも反応数は少なく、疲れやすさ・興味の変りやすさ・諦めやすさなどの傾向を認めた。反応の決定因とか内容などから、病児は健常児に比べて、知的水準は知らないが、未成熟な衝動性とか幼稚さが目立ち、情緒面の抑圧が強い。また恐怖とか敵意のサインも認められる。さらに、男児に、父親イメージへの拒否感が散見された。

3. 親子関係の質問紙調査

前年度は母子関係に焦点を絞ったが、本年度は、母子・父子・夫婦の3次元をとりあげ、前年度使用の調査用紙を改訂して実施した。目下、データ分析中である。

検索用テキスト OCR(光学的テキスト認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1. 知能検査によるアプローチ

1981年4月以来1982年11月までに170名の検査を実施した。原則として6歳未満には、「TK式田研・田中ビネー知能検査」(86名), 6歳以上には「WISC-R」(84名)を使用した。なお「WISC-R」は、知識・単語・数唱・絵画完成・絵画配列・積木模様の6種目に限定した。

平均IQは、田中ビネー107.5,WISC-R93.0であり、田中ビネーの方が多少高目であった。WISC-Rを使用した6歳以上を12歳を境にして2群にわけて比較すると(つまり、小学生群と中高生群)、小学生群が97.3、中高生群が84.3であった。先天性心疾患児の場合、年長児になるにつれて知能面の問題が生じやすいものと思われ、これには不完全就学などの知的訓練の不足が影響するよう思われる。田中ビネー使用の幼児群は、割合に知能は良いが、5歳児をとりあげると、歴年令相当問題と最高通過問題との距りが大きく、平均19ヶ月であった。知能構造に、幼い面と大人びた面とが含まれ、不均衡のように思われる手術前後のIQ比較を24名について検討中であるが、全般的には若干上昇しており、疾患の軽度の児にその傾向が見られる。